

## 文化財や貝塚の豊富なまち

# ふるた 古田

### 【地名の由来】

「古田」は、明治22年(1889年)古江村と山田村が合併して古田村になったことに由来する。

古江村は、昔入り江で古い港があったことから「ふるえ」と呼ばれた。

山田村は昔から「やまた」と呼ばれていたが、山あいの村で道が八方へ続き、八岐—「八岐の大蛇」の「やまた」と同じことで多くに分かれているという意味—と呼ばれるなどいくつかの由来がある。

### ① 西国街道と古江

マップC-5

西国街道が整備されたのは、江戸幕府の巡検使を迎えた寛永10年(1633年)である。道路を拡張し、宿駅を整備、橋をかけ、一里塚を造り、松並木を植えた。

古江村は、東は己斐村境から西の井口村境まで31町(約3.3km)で、そのうち草津村分を除くと21町

46間の長さであった。高須には一里塚が造られ、その上に塚松が植えられた。街道で家のない所は、松並木にした。



昭和61年(1986年)8月頃の街道松

### ② 上田流和風堂

マップC-5

上田家は、江戸時代は浅野藩の家老で佐伯郡の西部の諸村を治めていた。

初代の上田重安(宗箇)は武家茶道である上田宗箇流を創始。現在の茶寮「和風堂」

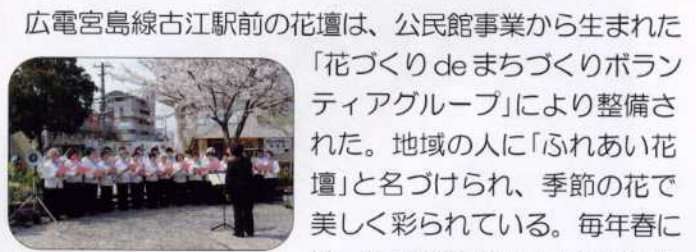
は、広島城内にあったものを復元したものである。また、上田家には広島県の重要文化財に指定されている具足・陣羽織・槍などが所蔵されている。



上田流和風堂前景

### ③ ふれあい花壇

マップC-5



第2回古田花まつり  
平成18年(2006年)開始

「花づくり de まちづくり ボランティアグループ」により整備された。地域の人に「ふれあい花壇」と名づけられ、季節の花で美しく彩られている。毎年春には、桜の花便りとともに「古田花まつり」を開催。

### ④ 狐が城

きつね じょう

今から500年前ころ、安芸国の守護武田氏と厳島神社の藤原神主家との間で「領地争い」が繰り返された。このころ山田に「狐が城」などが築かれたらしい。

マップA-4



狐が城縄張り図  
(表邦男作図)

### ⑤ 狂歌—由縁斎の碑

い えん さい

今から230年前ころ、広島では狂歌が盛んで、当時の「狂歌会」の人が、師の永田由縁斎(貞柳)の偉業を偲んで建てた。江戸時代の文芸に関する記念碑が現存するのは珍しい。

マップC-5



### ⑥ 古江一号貝塚跡

マップC-5



縄文・弥生時代の土器や石器が発見された。また、奈良時代の家の跡からすずりが出土したので、この時代、古江には字を知っていた人がいたといわれる。

### ⑦ 新宮神社

しんぐう

マップC-5

新宮神社は約650年前からある神社で、もともと古田村の村社であった。境内にあるタブの巨木は幹のまわりが274cmもあり、この神社の古さを示している。この神社の神楽は「十二神祇」という古い形式のもので、特に「荒平」は珍しい。神楽とともに行われる花火も変化があって美しい。

